

第12回全員発表研修会

日時：平成29年7月16日(日)、7月17日(月)

場所：熱海 金城館



矢田 孔太郎
(滋賀県)



上原 久晴
(京都府)

第12回全員発表研修会が7月16・17日熱海にて開催されました。例年だと富士屋ホテルさんにお世話になるのですが、耐震工事のため使用できず、本年は熱海・金城館さんにて開催されました。100名を超える発表者とケースプレゼンテーション試験予演会を兼ねたポスター発表など20名以上のポスター発表があり大いに盛り上がりました。

出席者の約3割が専門医ということもあり、発表している症例のレベルが年々上がっていることを再認識する内容でありました。経験の浅い方にはフレッシュマンの枠もありベテランから若手まで多くの方にとって充実した研修会でした。

また、16日の夕方に行われたシンポジウムでは『全員参加型ディスカッション』として各自にアンケート集計用のスイッチが配布され、質問に対する集計結果が瞬時にわかるシステムで、当会会員のインプラントに関する様々な現状が出席者で共有されました。使用しているインプラントの種類や上下顎臼歯部の通常埋入の時の免加期間の違いなどの質問から、年間の埋入本数や2本埋入したときの料金

などなかなか面と向かって聞きにくいことまで匿名性を活用した質問が多くあがりました。新人・中堅・ベテラン会員・インプラント関連業者の代表が壇上に上がり、それぞれの立場での現状をコメントするなど実り多いディスカッションでした。

夜は恒例の飲み会で、多くの先生が夜遅くまで盛り上がりました。恒例の勉強部屋は今年も開催され多くの先生方が夜遅くまで勉強されていたようです。

17日に開催された米沢 大地先生の特別講演『インプラント埋入と矯正のタイミング』では、複雑な症例の治療計画における、インプラント埋入と矯正のタイミングを多くの症例を通してわかりやすく講演していただき、講演後は多くの質問があがり大いに盛り上がりました。

全体を通じて明日からの臨床に大いに参考になる中身の濃い発表もおおく、毎年のことながら素晴らしい準備をしてくださいます役員の方々、事務局および関係者の方々に深く感謝いたします。

矢田 孔太郎



第 12 回 全員発表研修会

今年は熱海金城館にて、日本インプラント臨床研究会の全員発表研修会が開催され、口頭発表 105 題、ポスター発表 22 題もの会員発表がおこなわれました。

この日まで日々の自らの臨床の中で、なんとか発表できる症例はないかと頭を悩ませ、ようやく 4 分にまとめてきましたが、2 日間にわたる会員発表を聴き、毎年の事ながら感動と衝撃の連続でした。

より審美的、機能的な安定を求め、陽極酸化処理を施したチタン製アバットメントの使用。

咬合再構成後のメンテナンス中の破折をうけ、顎運動解析を用い徹底した原因究明と、原因に対して使用マテリアルの再考も含めたりカバーリー症例。

患者の年齢や生活環境も考慮し、矯正・自家歯牙移植を用い天然歯歯列・咬合の安定を求め、その目的のためインプラントを応用し長期安定をはかる症例。

いつも考えているつもりの事を、ここまで掘り下げ実践されているのかと感動しました。

口腔内スキャナーを用い院内でミリングするだけでなく、技工物の大きさ、種類に応じて技工所にデータを送り完成させる技術。

口腔内、模型、咬合床をスキャニングし、CT データも用いバーチャル上で義歯の排列行い、3D プリンターにて義歯作製を行う技術。

まだ先の技術と思っていた手法を、先輩方が日常臨床に取り入れておられる姿に衝撃を受けました。

100 名を超える専門医が所属する CISJ の底力と、全員発表会の醍醐味を感じられる瞬間です。

1 日目最後の「全員参加型ディスカッション」では、クリッカーナノを用いて、参加者全員のアンケート結果集計とディスカッションが行われました。

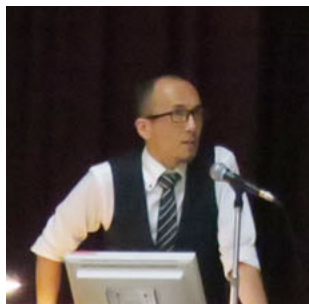
インプラント埋入手術において、ほぼ全てのケースで静脈内鎮静を使用される先生が 6 %。埋入予定部位の抜歯で全てでソケットプリザベーションされる先生が 16 %。また大臼歯の上部構造のマテリアル選択など、普段聞けないような話が多く飛び出し、参考になり来年も楽しみにになりました。

このような素晴らしい会を企画運営して頂きました実行委員の先生方、ありがとうございました。

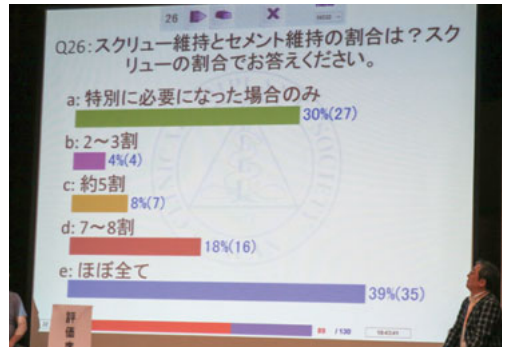
上原 久晴



第12回 全員発表研修会



第 12 回 全員発表研修会



第12回 全員発表研修会



第12回 全員発表研修会 懇親愛

